

## 2章

## まちづくりの目標

### 1. 韮崎市全体のまちづくりの考え方

本市は、山々に囲まれ緑あふれる豊かな自然に恵まれ、一つのまとまった都市として計画的な整備、開発及び保全する「都市計画区域<sup>※</sup>」は全体の約2割となっており、この都市計画区域の中に人口の約8割が生活しています。

本市の魅力は、長い時間をかけて形成された、七里岩を代表とする河岸段丘などの特異な地形、農作物を育む田園・果樹園の景観、多くの歴史的な遺産を有する歴史・文化が基盤となっていることです。こうした本市の特性や貴重な資源を基盤に据えながら、新たな魅力を創出するまちづくりを展開します。

そこで、3つのステップによりこれからのまちづくりを考えます。

#### STEP1 (基本理念)

#### 永続的に守り伝える普遍的な考え方



普遍的に変わらないものを守りつつ・・・

#### STEP2 (中長期)

#### 時間をかけコツコツと取り組む考え方



その実現を目指して・・・

今後20年間のまちづくりを見据えて計画します

#### STEP3 (短期)

#### 身近な課題解決に向けて取り組む考え方

##### 将来都市像

##### まちづくりの基本目標

##### 将来人口の展望

##### 将来都市構造

##### 活き活きとした暮らしをつくる・人を呼び込む戦略ストーリー

1. まちなかの賑わいを生み出す
2. 七里岩で新たな賑わいを生み出す
3. 地域同士をつなぐ
4. 安心して働き・住まい・次世代を育てる

##### まちづくりの方針 ～全体構想～

##### 各地域のまちづくり方針 ～地域別構想～

## STEP1（基本理念）：永続的に守り伝える普遍的な考え方

～次世代へ守り伝えていくべきものをまちづくりの基盤（骨格）とします～

- ①豊かな自然、美しい景観と共生<sup>※</sup>するまちづくり
- ②長い時間をかけて創られた歴史・文化と共生するまちづくり
- ③互いに支え合い認め合う誰もが自分らしく活躍できる共生社会の実現と協働<sup>※</sup>のまちづくり

山岳や河川、河岸段丘など「豊かな自然と景観」や、本市という街を形づくる「歴史・文化」を、長期にわたるまちづくりの基盤（骨格）として後世に伝えます。また、誰もが自分らしく活躍できる共生社会を実現し、協働によるまちづくりを進めます。

## STEP2（中長期）：時間をかけてコツコツと取り組む考え方

～安心して豊かに暮らし続けられるようじっくり取り組みます～

- ①自律できるコンパクトな都市を創る
- ②広域圏を舞台とした交流・活力を創り出す
- ③安全・安心に住み続けられるまちとする

### ①自律できるコンパクトな都市を創る ⇒ 時間をかけてコンパクトシティ<sup>※</sup>を形成する考え方

本市は古くから交通の要衝として栄え、蕪崎駅周辺を中心とした公共施設や商業・業務地を形成する市街地<sup>※</sup>は、大きく拡散することなく比較的コンパクトに形成されています。その一方で、周辺は豊かな自然に囲まれた集落地が点在しており、生活に必要な都市機能の維持が困難な状況です。そのため、集落と市街地を結ぶ公共交通ネットワーク形成が課題となっています。

これからの人口減少を考慮すると、無秩序に市街地を拡大することは避けなければなりません。コンパクトで自律したまちづくりを進めるためにも、市街地を必要以上に拡大せず、山岳や河川・里山に抱かれた田園・果樹風景を守り、蕪崎駅周辺を中心とする都市拠点に行政機関や商業、人口などが集積したコンパクトで利便性の高い区域を形成することにより、暮らしやすく、にぎわいと活力があふれるまちを目指します。

### ②広域を舞台とした交流・活力を創り出す ⇒ 広域道路・交通ネットワークを活かす考え方

本市では、リニア中央新幹線や新山梨環状道路・中部横断自動車道といった広域・交通ネットワークの整備を背景に、人やものの流れが大きく変わることが予想され、首都圏等とのアクセス時間短縮により観光資源や企業誘致を含む様々な経済活動の活性化や、居住選択の多様化による居住人口の増加が期待されます。

広域を見据えて産業・観光振興を進めるとともに、交流によって訪れる人々、ワーケーション<sup>※</sup>や多拠点居住等による関係人口を増やし、蕪崎を大切に想う人口を増やすことで、地域課題の解決・地域経済の活性化に結び付けます。

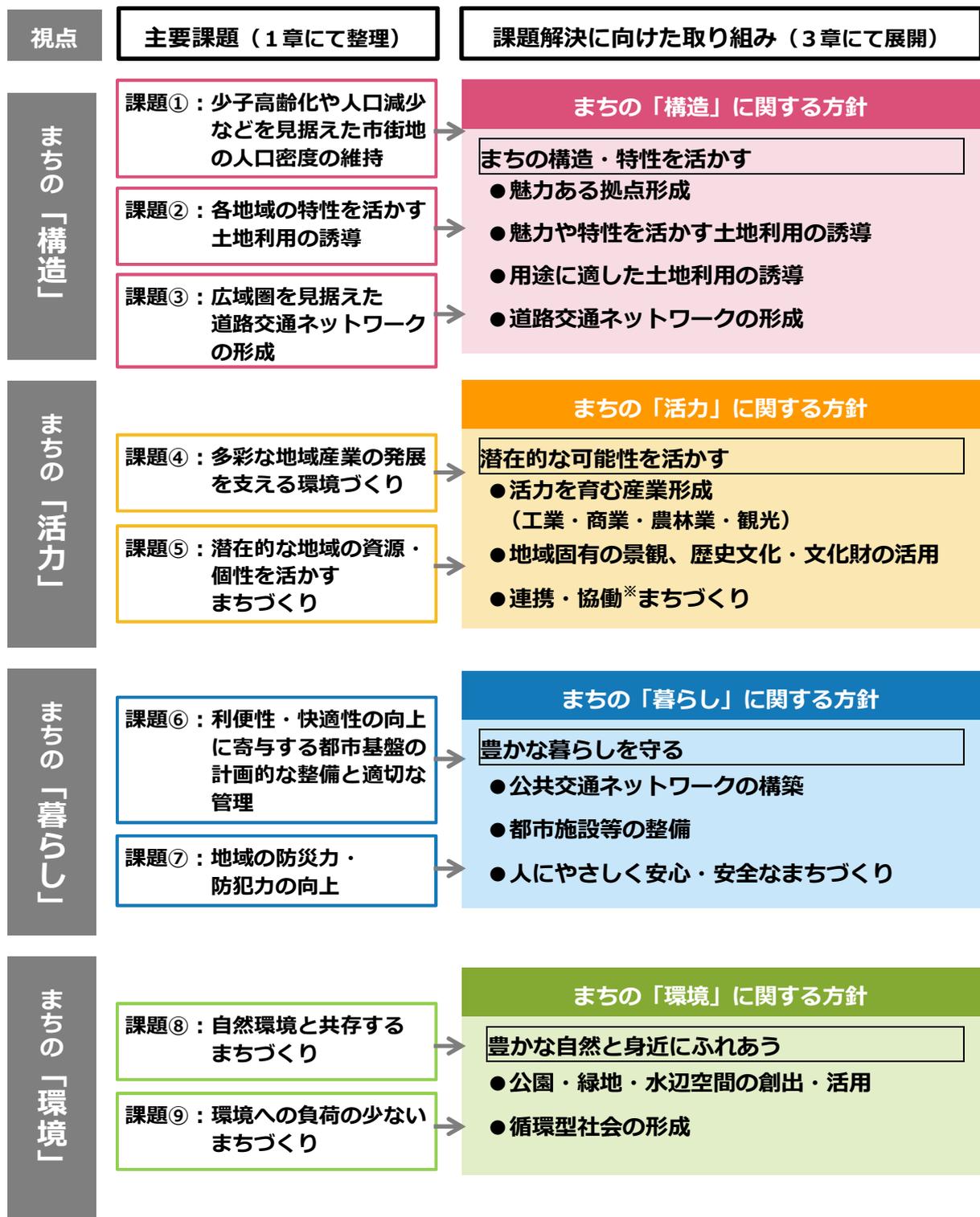
### ③安全・安心に住み続けられるまちとする ⇒ 防災対策を着実に続ける考え方

本市の市街地は2つの河川に挟まれ七里岩の河岸段丘が市街地を貫いており、洪水や土砂災害などの自然災害への対策は重要な課題です。

地震や洪水等の災害に備える基盤整備や、防災施設の整備、危険性の低い場所への都市機能の誘導、災害時への避難・防災体制の充実、被災後の復興プランの作成など、被害の拡大を防ぎ被災後もスムーズに復興できる取り組みを進めます。

### STEP3 (短期) : 身近な課題の解決に向けて取り組む考え方

まちを構成する4つの視点「構造」「活力」「暮らし」「環境」から挙げられた主要課題を解決する取り組みを進めていきます。



## 2. 将来都市像

将来目指すべき都市の姿を将来都市像として示します。

都市計画マスタープランでは、総合計画における「都市計画」の分野を具現化する計画として、以下の将来都市像を設定します。

### 自分らしく輝き 幸せな暮らしを紡ぐ 永遠のふるさと葦崎

本市は街道が行きかう交流の街として栄えました。移り変わる歴史の中で、豊かな自然、歴史・文化などの地域資源を大切に守りながら、磨き上げるという過程が必要です。

見つける、育てる、挑むという過程を通して、「葦崎らしさとは」を問い直し、これまでに形成されたまちづくりの強みや魅力・価値を高めて次代に引き継ぐために、一人一人が輝く基盤を整え、幸せな暮らしにつなげることで賑わいが生み出されるまちづくりを目指します。

#### 葦崎らしさを「**見つける**」ことができるまちづくり

古い歴史を持つ葦崎は、地域同士の交流や、産業・文化の交流、人の交流等を通じて発展してきました。交流の歴史において、新しい価値観が融合し、様々な変化に柔軟に対応しつつ、様々な気づきを発見できる環境が整っています。

そこで、まちづくりを支えている市民や来訪者等が、葦崎らしさを「見つける」ことができるまちづくりを目指します。

#### 葦崎らしさを「**育てる**」ことができるまちづくり

本市は、交通の要衝として栄えた歴史があり、広域交通網の整備により様々な人や物が集まる環境が整っています。

まちの特性や誇れる貴重な資源を活かし、様々な人や産業、他都市との関わりを深め、新たな魅力を付加しながら葦崎らしさを「育てる」まちづくりを目指します。

#### 葦崎らしさで「**挑む**」まちづくり

これまでは、人口が増加し、経済が発展する社会を前提とした「拡大型のまちづくり」を進めてきました。これからは、人口減少や少子高齢化の進展、経済のグローバル化や大規模災害への備え、地球規模での環境問題など、まちづくりにおいて大きな転換期を迎えることになると考えられます。

そこで、葦崎らしさを見つけ、育てたことを活かし、今後、直面する課題や新たな事柄に対して「挑む」まちづくりを目指します。

### 3. まちづくりの基本目標

まちづくりの目標は、将来都市像を実現するための指標となります。

本市の現状や身近な地域課題、市民意向等を踏まえて、持続的に発展するまちづくりを念頭に、将来都市像の実現に向け基本目標を以下のように設定します。

#### 基本目標 1：人・もの・情報が集まる交流と活力を育てるまちづくり

##### ■中心市街の賑わいづくり

多様な都市機能が集積する魅力的な都市空間を創出し、まちなか商業・居住の促進やにぎわいの向上を図り、都市拠点としてふさわしい中心市街地の形成を図ります。

##### ■持続可能<sup>\*</sup>な活力ある地域づくり

中心市街地と各拠点をネットワークで繋ぎ、人・もの・情報の移動や交流を促すことで、地域ごとのまちづくりの効果を高め、暮らしやすく魅力のあるまちづくりを推進します。

##### ■新たな道路・交通ネットワークによる広域圏を見据えたまちづくり

交通基盤を活かした産業立地や観光の振興により、職住近接<sup>\*</sup>のまちづくりを目指します。また交流・関係人口を増やし、新たな韮崎市の原動力として活かす取り組みを進めます。

#### 基本目標 2：地域特性を活かすまちづくり

##### ■地域経済や雇用環境が充実するまち

農業・工業・商業・観光など地域経済を支える産業の振興を図り、市民が生き活きと働くことができる雇用環境を充実し、暮らしを支える稼ぐ・稼げるまちの創出を目指したまちづくりを推進します。

##### ■歴史・文化の継承と新たな魅力を融合させたまちづくり

独自の歴史・文化を、次代に継承すべき資源、地域の魅力を高める資源として積極的に活かします。

#### 基本目標 3：誰もが暮らし続けられる豊かで安全・安心なまちづくり

##### ■心地よい豊かな暮らし

本格的な人口減少社会・少子高齢社会を迎える中で、市民ニーズは多様化し豊かさやゆとりへの要求が高まっています。便利でゆとりのある快適な生活を支える都市空間の形成に向け、積極的なデジタル技術の活用を図るとともに、身近な生活圏で買い物や行政・福祉サービス等を受けることができる、生活に必要な諸機能が近接するまちづくりを推進します。

##### ■災害に強いまち

本市を取り囲む山・川などの豊かな自然の魅力や利便性の高い都市環境を活かしつつ、災害リスクを低減し、市民の日常生活を大切にする安全・安心なまちづくりに取り組みます。

### ■地域の絆で支え合い、助け合うまち

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、人と人とのつながりを大切にし、共に支え合う福祉の視点を大切にします。

## 基本目標 4：美しいふるさとの魅力に気づき次世代へつなげるまちづくり

### ■自然環境の保全・活用による魅力の継承

本市の豊かな自然環境を守り活かし、市民がその魅力に気づき誇ることができる自然環境を次世代へ伝えていきます。

### ■環境にやさしい暮らしづくり

地球規模で深刻化する環境問題を背景に、より良い環境を次世代に継承していくため、地球にやさしい資源循環型のまちづくりを推進します。

## 基本目標 5：チーム韮崎で夢に挑むまちづくり

(上記4つの目標に全て関係する目標)

### ■市民の力・地域の力が活きる協働\*のまちづくり

市民の誰もが、まちづくりの主役となり活躍できるよう、まちを知る機会を増やし、情報の共有やまちづくり団体の育成・支援など、今まで培ってきた「チーム韮崎」を合言葉に市民協働による地域の力が活きるまちづくりを推進します。



▲韮崎の市街地

## 4. 将来人口の展望

本市の人口は、平成 17 年（2005 年）から減少傾向にあり、今後も減少傾向が続くものと予測されます。

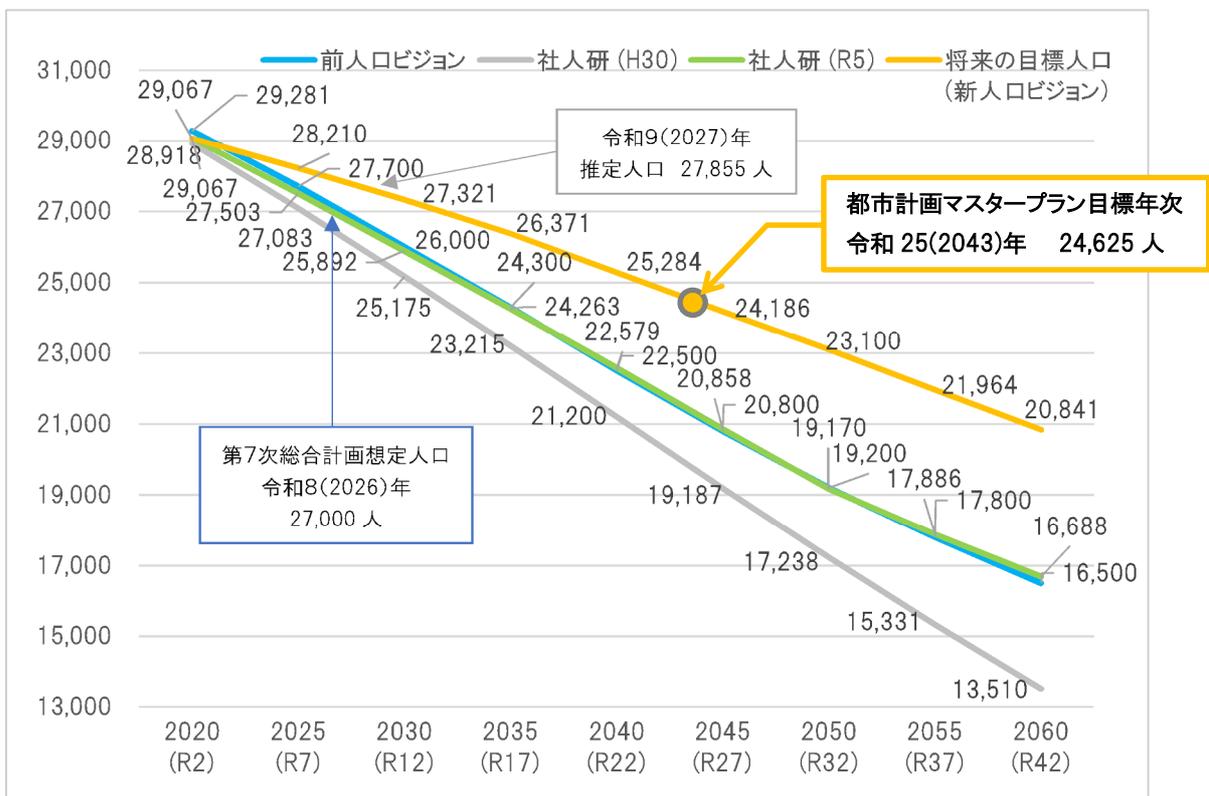
デジタル田園都市構想総合戦略では、「人口減少を抑制する」戦略と、「人口減少に適応する」戦略に取り組むことが必要とした上で、合計特殊出生率の向上、健康寿命の延伸による自然動態の改善と、近隣市への転出過多の抑制、女性・若年層に「選ばれるまち」となるための各種施策を横断的に実施することで、令和 12 年（2030 年）に 27,321 人、令和 27 年（2045 年）には 24,186 人の人口を目指すとしています。

本計画では、令和 5 年度（2023 年度）からの第 7 次総合計画後期計画とも整合を図る中で、本計画の目標年次である令和 25 年（2043 年）の想定人口を 24,625 人とします。

近年の人口動向からすると目標達成には大変な努力が必要であり、特に、流出人口を抑え流入人口を増やすことへの対策が必要です。

都市計画マスタープランでは、上位関連計画による人口対策・産業雇用対策をはじめ、産業振興策や定住促進策などの多方面からの施策と連携し、都市計画の面から必要な土地利用誘導や都市基盤の整備を進め、目標年次における人口減少幅の抑制を目指します。

〔将来の目標人口〕



	R2 (2020)	R7 (2025)	R9 (2027)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)	R37 (2055)	R42 (2060)
前人口ビジョン	29,281	27,700	27,020	26,000	24,300	22,500	20,800	19,200	17,800	16,500
社人研 (H30)	28,918	27,083	26,319	25,175	23,215	21,200	19,187	17,238	15,331	13,510
社人研 (R5)	29,067	27,503	26,858	25,892	24,263	22,579	20,858	19,170	17,886	16,688
将来の目標人口 (新人口ビジョン)	29,067	28,210	27,855	27,321	26,371	25,284	24,186	23,100	21,964	20,841

出典：デジタル田園都市構想総合戦略（令和 6 年 3 月）

## 5. 将来都市構造

市域全体の特徴や骨格を大まかに捉え、めざすべき将来の都市の姿を分かりやすく示します。

### (1) 固有の地形を活かす都市構造の形成

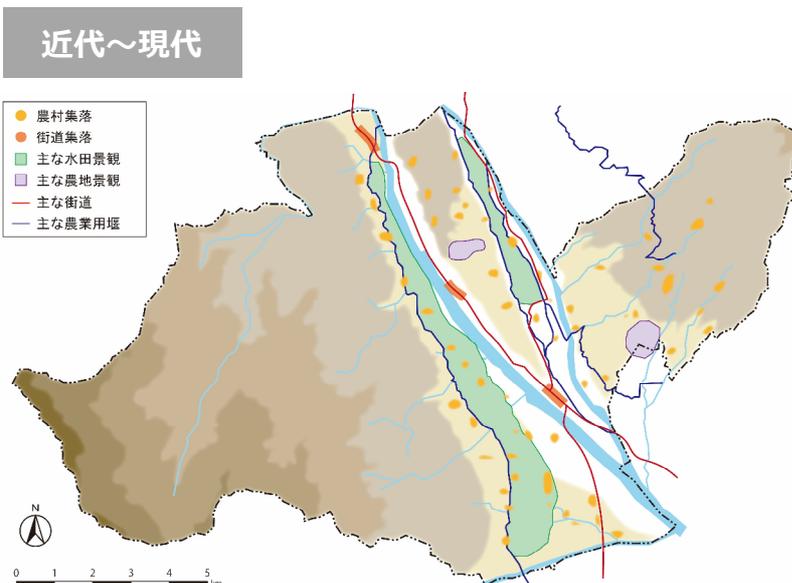
本市では、地殻変動と火山の噴火、河川による土砂の堆積・侵食により、固有の壮大な地形が生成されました。旧石器時代から肥沃な台地や丘陵上に集落が形成されました。

中世では、地形を活かした城郭や館の整備や、治水事業などの開発が進み、近世では、釜無川・富士川の水運が開かれ、甲州街道の整備と相まって宿場町として発展し、後に鉄道が開通しました。さらに用水・堰の整備により広大な農耕地が開かれました。

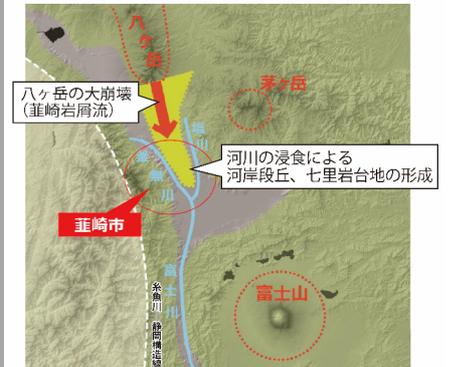
近代では、流通の結節点や木綿や織物、米・麦・養蚕、果樹、町場の伝統産業などの生業が発展し、韮崎の地域経済を支えてきました。

昭和 29 年（1954 年）の合併により韮崎市が誕生し、高速道路の韮崎 I C を活かした工業団地の整備により新たな産業が発展しています。

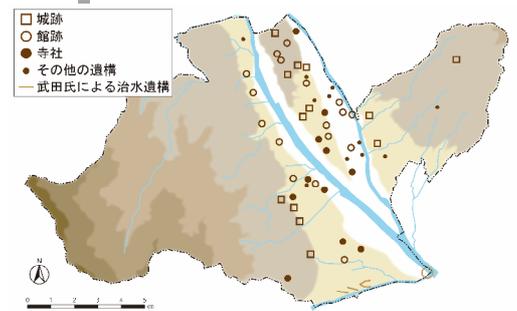
街道や水運の結末点として発展した大きな二つの河川に挟まれた市街地※、周辺は豊かな自然と農地に囲まれる都市構造を大きく変えずに、今後も固有の地形を活かした都市構造を引き継ぎます。



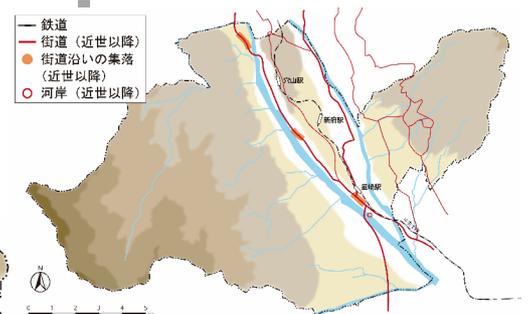
### 地形の生成



### 中世



### 近世



## (2) 将来都市構造の基本的な考え方

人口減少社会において持続可能<sup>※</sup>な都市を目指すためには、豊かな生活に必要な機能を維持するための機能集約に加え、地域の個性と魅力を組み合わせることにより、活力と賑わいを高めていく必要があります。

そのため、利便性の高い中心市街地から自然豊かな地域まで、多様な魅力や特性に応じ、都市機能や居住環境の向上を図る「拠点」や、拠点をつなぐことにより魅力を高めまちの交流を活性化させる「骨格軸」を位置付けます。

このような「拠点」や「骨格軸」、さらには土地利用の在り方を大きく示した「基盤ゾーン」により、将来都市像を踏まえた将来あるべき本市の姿として「将来都市構造」を形成します。

## (3) 将来都市構造の構成

将来都市構造は、以下の3つの層を重ね合わせて表現します。

### ■まちの拠点

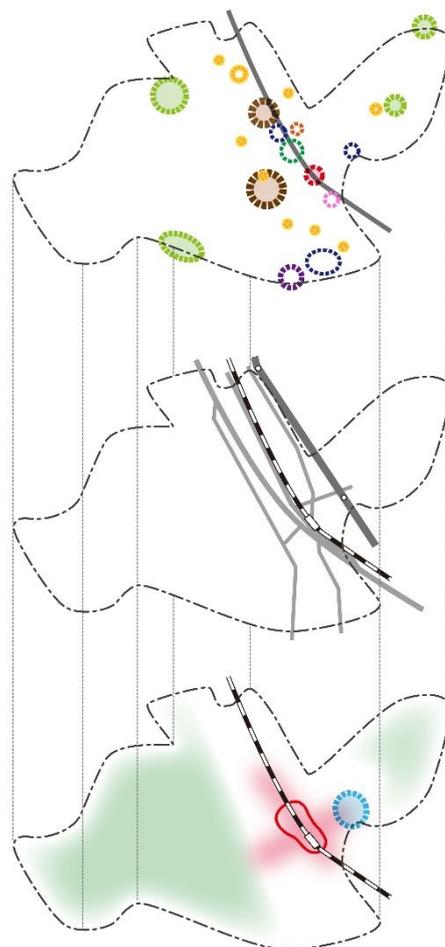
本市のまちの成り立ちを踏まえ、将来にわたって都市や地域のにぎわいや活力を支え、多様な都市活動の中心となる場として、「都市拠点」「産業交流拠点」「暮らしの拠点」の3種類の拠点を位置付けます。

### ■まちの骨格軸

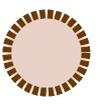
広域的な連携や都市内の連携を強化するとともに、拠点間を結び、都市の継続的な発展を支える線路や道路をまちの骨格軸として位置付けます。

### ■基盤ゾーン

将来都市構造の基盤となる山林や農地、都市としての賑わいを盛り上げる空間を基盤ゾーンとして位置付けます。



## ■まちの拠点

区分	役割	主な対象地
<b>都市拠点</b>		
都市拠点 	多彩な都市活動を支える本市の中核として、商業・業務、娯楽・文化等の様々な機能集積を図ります。	韮崎駅周辺
地域生活拠点 	地域コミュニティや生活環境の維持を基本とし、特色ある地域づくりを図ります。	穴山駅周辺 その他地区の拠点
<b>産業交流拠点</b>		
工業拠点 	産業の集積や交通の利便性を活かし工業機能の集積・充実を図ります。 既存産業の操業環境の向上・維持や、新規企業の積極的な誘致を図ります。	穂坂工業団地 藤井町坂井地区 御勅使工業団地 上ノ山・穂坂工業団地
文化交流拠点 	文化や交流を担う取り組みを充実し、都市の文化的活動を支える場として機能強化を図ります。	韮崎文化ホール
武田の里交流拠点 	武田発祥の地として歴史・文化を広く継承しながら、暮らしの中での交流や観光交流機能を担う、市民の誇りとなる拠点を形成します。	神山地区 新府城・民俗資料館 (総合的な博物館の新設)
自然交流拠点 	豊富な自然環境を活かした交流・活動の取り組みを充実し、自然共生 <sup>*</sup> を促進する拠点を形成します。	荒倉山、甘利山、茅ヶ岳、鳳凰三山(薬師岳、観音岳、地藏ヶ岳) 穂坂自然公園
<b>暮らしの拠点</b>		
行政サービス複合拠点 	医療・福祉・警察・消防・スポーツ交流等を担う行政サービス機能が集積する場として、広域圏を対象とした機能の集積を図ります。	山梨県北巨摩合同庁舎 甲府地方法務局 韮崎市立病院 韮崎公園
広域福祉拠点 	広域を対象とした医療・福祉機能が集積する場として、健康な暮らしを支える拠点を形成します。	県立あけぼの医療福祉センター 県立北病院
緑の防災拠点 	市民の集い・交流、自然との触れ合い、レクリエーション、スポーツ、防災、魅力ある住宅地の形成など、市民生活の憩いや安全を支える機能の充実を図ります。	韮崎中央公園

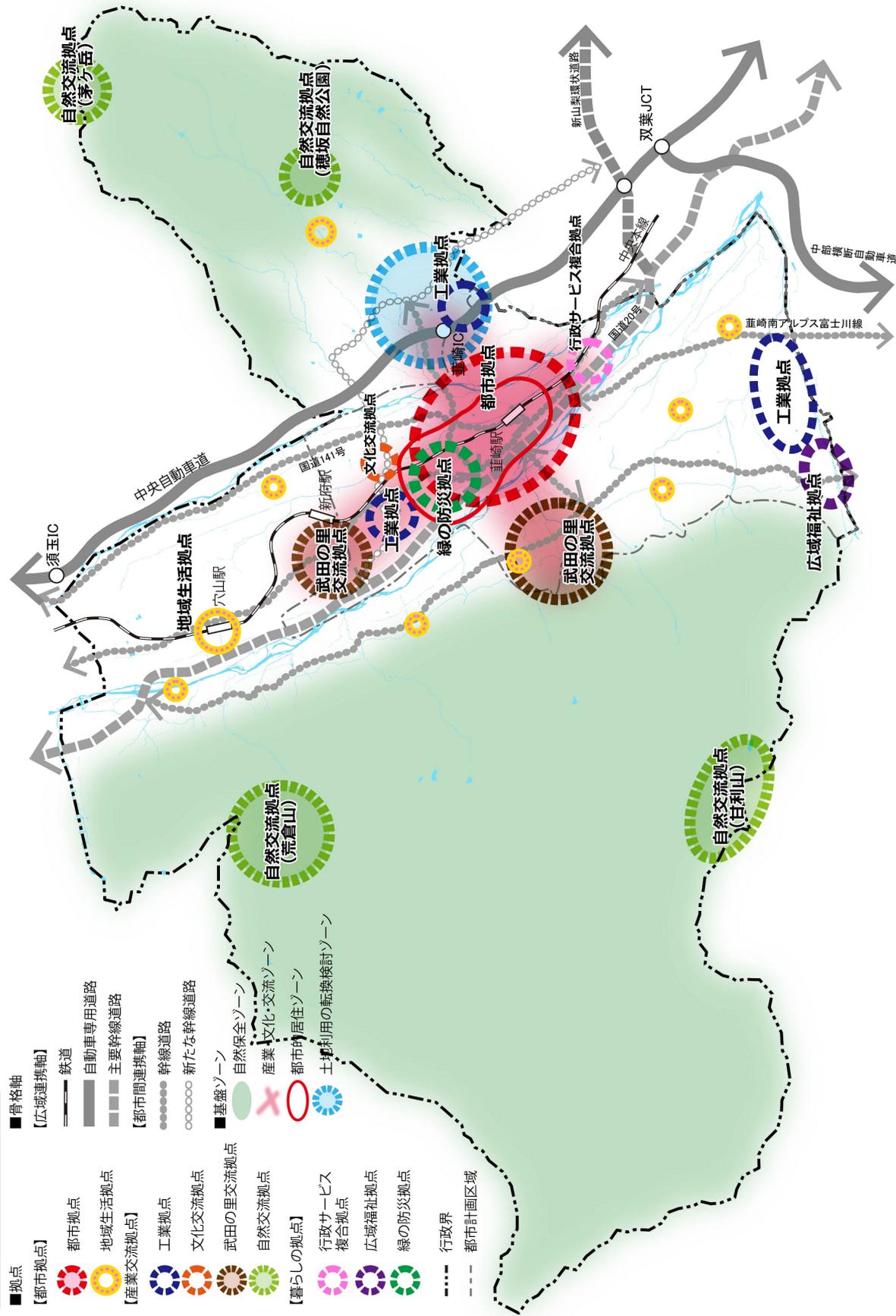
## ■まちの骨格軸

区分	役割	対象路線
<b>広域連携軸</b>		
鉄道 	首都圏や中部・東海方面との広域的な連携を担う鉄道網	J R 中央本線
自動車専用道路 	広域的な交通連携機能や産業連携機能、交流機能などを有する道路	中央自動車道
主要幹線道路 	都市間をつなぐ交通連携機能や産業連携機能、交流機能など様々な機能を担う市内の骨格的な道路	国道 20 号 国道 141 号
<b>都市間連携軸</b>		
幹線道路 	主要幹線道路を補完する、都市における快適な生活や都市の発展を支える骨格的な道路	茅野北杜韮崎線 韮崎南アルプス中央線 韮崎南アルプス富士川線 その他新規路線

## ■基盤ゾーン

区分	役割
自然保全ゾーン 	農地や森林、河川・水路などは、人々に心の豊かさや潤いを与える自然環境資源として保全に努め、水や緑にふれ合い、感じることができる空間として後世に継承していきます。
産業・文化・交流ゾーン 	都市の拠点・産業拠点・武田の里交流拠点など都市の中核拠点を結び、機能を補完し合う交流連携の軸として、都市の産業発展や文化交流機能等の様々な機能を担う空間とします。
都市的居住ゾーン 	韮崎駅周辺と韮崎中央公園をつなぐゾーンを「都市的居住ゾーン」と位置付け、圏域内の交通環境を整備して生活利便性を高め、都市的サービスを楽しむことができる便利な居住空間を創出し、人口や都市機能等の集積を図ります。
土地利用の 転換検討ゾーン 	農地については地域計画等により農政担当課との調整を図りながら土地利用の転換を検討します。  ●住宅地：穂坂地区 宅地需要に応えるため、住宅系の土地利用への展開を図ります。  ●産業複合：韮崎 I C 周辺 韮崎 I C 周辺では、広域交通網の利便性を活かし、工業・業務・都市型農業など、新たな産業用地、新たな魅力を発信する場として機能充実を図ります。

# 将来都市構造図



## 6. 生き活きとした暮らしをつくる・人を呼び込む戦略ストーリー

生き活きとした暮らしをつくり、人を呼び込むために、市民・企業・各種団体・行政の協働※による取り組みを戦略ストーリー（重点施策）として位置付けます。



### 戦略ストーリー3

#### 地域同士をつなぐ

- 必要性や関心は高いが、利用の少ない公共交通への認識を変える

### 戦略ストーリー4

#### 安心して働き・住まい・次世代を育てる

- 豊かに住み続けられる暮らしを支援する
- 山岳や既存の公園・緑地を活かし、身近な交流の場を増やす

## 戦略ストーリー1 まちなかの賑わいを生み出す

### ■引き継がれるストック※を活用し賑わい・交流の場を創出する

韮崎宿という、人と人、物と物、そして情報と情報が交差しているエリアにおいて、賑わいを生み出してきたストックを活用しながら、新たな賑わいの場や取り組みを創出します。

#### 【具体的な取り組み】

- 空き店舗活用
- 起業・移住者支援
- 都市景観・花の景観の創出
- 駐車場の確保

#### 【効果】

生き活き：まちなかでの買い物・食事・交流の機会が増え新たな文化創造につながる。

呼び込み：まちなかへの来訪者の増加や仕事と暮らしのセットで新たな移住者を呼び込む。

### ■まちなかの回遊性を高め歩く文化を創出する

市街地※内の主要箇所を結ぶ散策したくなる歩行者ネットワークを整備し、まちなかの回遊性を高める取り組みを進めます。自家用車中心の生活と並行して、歩く速度でまちなかを楽しむことができる歩く文化の醸成に取り組みます。

#### 【具体的な取り組み】

- フットパス※ルートの設定
- 歩くイベントの開催
- 歩きやすい道づくり・案内表示・景観づくり

#### 【効果】

生き活き：歩く速度で楽しめる仕掛けづくりにより人の流れや滞留により賑わいが生まれる。

健康寿命が延びる。

呼び込み：歩く観光に繋がり来訪者が増える。



▲商店街



▲歩きやすい歩道の整備

## 戦略ストーリー2 七里岩で新たな賑わいを生み出す

### ■防災・スポーツ交流・健康づくりを楽しむ場を創出する

釜無川、塩川の浸食によって形成された七里岩の高台に位置する葦崎中央公園とその周辺では、市民の憩いや交流、健康づくりを支え、自然災害時の防災拠点となる機能を充実します。また、七里岩台上へのアクセス向上に向けた取り組みを検討します。

#### 【具体的な取り組み】

- 新体育館の整備
- 新防災拠点の整備
- 都市機能や居住地の誘導に向けた対策を検討
- 七里岩台上への公共交通による利便性向上の検討

#### 【効果】

生き活き：災害時など有事の際の第二の拠点となる。

呼び込み：関係人口が増加することで、新たな移住・定住者を呼び込む場となる。

### ■歴史・文化とまちづくりが融合する武田の里交流拠点をつくる

民俗資料館や武田氏をルーツとする文化・歴史資源を活かした拠点を形成し賑わいの創出に繋がります。

#### 【具体的な取り組み】

- 新府城の整備
- 史跡のガイダンス機能を兼ね備えた総合的な博物館の整備

#### 【効果】

生き活き：葦崎の歴史を後世まで伝え、歴史を知り誇りに思うことができる。

呼び込み：武田氏の里としての知名度が上がり、歴史や城を目的とした来訪者が増加する。



▲葦崎中央公園



▲新府城跡

## 戦略ストーリー3 地域同士をつなぐ

### ■必要性や関心は高いが、利用の少ない公共交通への認識を変える

公共交通網の再編や利便性向上、利用促進を図り、持続可能<sup>※</sup>な公共交通ネットワークを形成し、安全・安心かつ自由に健康的な生活ができるまちとします。また、自家用車による二酸化炭素排出量を抑える低炭素まちづくりを進めます。

#### 【具体的な取り組み】

- 市地域公共交通計画・市道路整備計画に基づく整備検討
- バス路線網の見直し
- 公共交通利用促進策の実施（バスロケーションシステムの導入、アプリの開発など）
- 自動運転技術の導入や新たなモビリティ<sup>※</sup>サービス（MaaS<sup>※</sup>）構築の検討
- 新たな交通モードの導入検討  
（デマンド<sup>※</sup>タクシーや乗合タクシー、A I<sup>※</sup>オンデマンドバスなど）
- 交通結節点<sup>※</sup>（鉄道駅の3 駅）の活用強化

#### 【効果】

生き活き：交通手段を選ぶことができ誰もが快適に移動できる範囲が広がる。

呼び込み：観光地へ行きやすくなる。観光ルート化により楽しめる場所が増える。



▲ 韮崎市民バス

## 戦略ストーリー4 安心して働き・住まい・次世代を育てる

### ■豊かに住み続けられる暮らしを支援する

若者、特に女性が首都圏や周辺都市へ転出している現状です。暮らし続けられる場として魅力高め、共生社会<sup>※</sup>の実現や、女性が仕事と子育てを両立できる仕組みを充実します。

### 【具体的な取り組み】

- 子どもたちが韮崎市を知り、誇りに感じる取り組みの充実
- 人格と個性を尊重し多様な在り方を相互に認め合う施策の推進
- 子育て支援センターを通じた子育て支援や民営化等による保育サービスの充実
- 就業支援（女性活躍企業への奨励金支給）や起業支援
- 移住者支援等も含めたワンストップ窓口での支援
- 住宅購入のための融資・支援制度や下水道等の設備支援等に関する情報提供の充実

### 【効果】

生き活き：地域や人とつながる、愛着が深まる、市との関係が深まる。市民の憩いの場、子育て環境が充実する。韮崎市に愛着を持ち続けられる。

呼び込み：移住定住の促進につながる。

### ■山岳や既存の公園・緑地を活かし、身近な交流の場を増やす

公園・緑地や自然の特色を踏まえ、協働<sup>※</sup>体制のもと、有効活用することで、生き活きとした暮らしを支える交流の場とし、市内外からも人を呼び込む魅力づくりに取り組みます。

### 【具体的な取り組み】

- スポーツコミッション（スポーツツーリズム<sup>※</sup>）との連携
- 甘利山グリーンロッジの活用
- 韮崎中央公園のPFI<sup>※</sup>の実施と体育館・防災拠点としての新たな役割
- 韮崎公園のPFIの実施
- 自然を活かした公園（釜無川河川公園・塩川ふれあい公園・午頭島公園・穂坂自然公園・武田の里甘利沢川さくら公園）
- まちの歴史を活かした公園づくり（穴山さくら公園・観音山公園・本町ふれあい公園、高松公園、新府公園）
- スポーツを通じた公園づくり（御勅使公園・グリーンフィールド）
- 南アルプスユネスコエコパーク<sup>※</sup>に関連する環境教育の充実

### 【効果】

生き活き：憩いの場が増える。自然との触れ合いにより心も体も健康になる。スポーツを通じた交流、身体づくりを行うことで、生活に楽しみが生まれる。

呼び込み：スポーツを通じた交流・関係人口が増える。



▲韮崎市子育て支援センター



▲スポーツイベント（穂坂自然公園）